

アンケート結果

昨年末にお願いしたアンケートは22通の回答があり、また関連して1通のお便りを頂きました。概要は先に第2巻第1号の巻頭でご報告した通りです。

記述式のため、数値として取りまとめるはおりませんが、ご参考までにご意見を列記しました。言い回しなどは事務局にて省略・補足した部分があります。

1. 研究会の運営について

現在の体制についてどう思うか？

- *とりあえず今の体制が妥当である。当面はこのままでよい(同意見9)。
- *だんだんに整備していくとよい。
- *事務局を持ち回りにした方がよい(同意見2)
- *各分野から均等となるように委員を選んでみてはどうか。
- *会員の数が多くなると体制を考え直さなくてはならなくなるのではない。
- *会費の会計報告も簡単にこなしてほしい。
- *編集委員には謝礼等を支払ってほしい。
- *現在の事務局の苦勞を感じる。早急にしっかりした体制を作る必要があるのではない。
- *会費は少々高くしても事務局の仕事の一部を外部発注すべきだ。

将来のありかた。学会にするべきか

<慎重に、交流の場としての機能重視>

- *学会にするのは、どういう側面について特に新しい集まりを目指すのかがはっきりしてからでよい。
- *学会にするにしても積み重ねが必要。土壌肥料、植物、園芸、などの各学会へも働きかけて、会員を増やすことが先決だ。
- *各会員がそれぞれの所属学会で活躍していることを考えると、むしろ相互交流をはかるような活動が望ましい。
- *いろいろな分野の人がかかわって、形式にとらわれず意見交換ができる場とするのがよい(同意見2)
- *この会の良さはニュースレター上での意見交換(情報提供、収集)や研究集会での自由な発表にある。あまり形式ばった会にはならない方がよいのではないか。
- *Intersocietyな組織が望ましい。
- *研究会のままがよい。学会にすることの利点はなにもない。
- *根研究の専門家ばかりではないのだから学会にしても運営を維持していくのは大変ではないか。
- *苦勞してまで学会にするだけの利点はない。
- *根の研究が専門の人にとってはきちんとした学会が望ましいだろうが、自分は「一般的作物栽培技術研究の一環として根の問題にも目を配りたい」という立場なので、根に関する多様な情報とエッセンスが分かる会であれば充分。こうした2つの立場の会員が併立できるような体制を考えられないか？

- *個人的にはIntersocietyな情報集約の場となることを望むが、そのためには大きくなるということもあり、学会としての整備も必要なのかも知れない。うまく両者を併立する道はないだろうか？

<学会にしたい>

- *学会にして学会誌をだしてほしい(同意見2)。
- *学会にしてほしいが時期の判断が難しい。
- *根専門の学会というのもあってよい。

学会誌の創刊について

<学会誌をだしたい>

- *是非出してほしい。
- *できれば学会誌を出したい(同意見3)
- *年1回でも学会誌をだしてはどうか。
- *国際誌 Root Research をだしてほしい。
- *欧文の学会誌をだす方向で進めてほしいが、時期が難しい。

<困難だ。ニュースレターでよい>

- *交流の場ということが重要なので、あえて学会誌はださなくてもよい。
- *会員でも、自分で直接根の研究をしている人は少ないし、それぞれほかに所属の学会がある。サーキュレーションのこともあり、学会誌を発行しても皆他誌に投稿し、論文が集まらないのではないかと。根の研究なら他にも発表の場があり、あえて学会誌にして存続させる必要はない。
- *学会誌をだした場合、サーキュレーションの悪い初期を乗り越えるのが大変。各会員が既存の良い雑誌に論文を載せるよう努力すれば良いことで、現段階では苦勞の割にみのりが少なくなるのではないかと。

その他、運営に関して

- *学会長をおくときはアメリカの学会を参考にプロフィールを示し、選挙を行ってほしい。
- *現在の2000円会費では会の運営や会誌発行は大変だと思う。会費は一人1万円がよい。
- *各人で根の研究や勉強に関心のある方々の参加を求める運動を積極的に展開して研究会のポリシーを高め、会員の範囲をもっと広げてみてはどうか。
- *多岐の分野にわたるので部門を設ける。
- *地方に支部学会をつくり、支部レベルでの学会(講演会)も開催した方がよい。

2. 会誌(『根の研究』)について

将来の内容。掲載してほしいものなど。

- *海外の研究者にも執筆してもらいたい。
- *情報掲示板があると役に立つ。たとえば「根の吸水能力を測りたいがうまくいかない。何か

- アドバイスを。連絡先は「……………」。
- *根圏の物理的環境（酸素の拡散、土壌との摩擦など）も含めてほしい。
 - *根の内部の構造やその機能に関する総説も載せてほしい。
 - *大学の公募人事。
 - *総説を充実させてほしい。
 - *過去3カ月に世界中で発表された根に関する論文をタイトルだけでも掲載してほしい。
 - *農林省の各年度の概要書集を見ると、地域農試、地方農試の研究の取り組みがわかる。この中から、根の研究に関する情報を農水省の方でも年に1度収集して頂けると参考になる。

会誌の運営に関して

- *企業から広告をとって経費を浮かせてみてはどうか。
- *会員を増やしてしっかりした印刷の雑誌にするべきだ。
- *ISSN登録をするべきだ。
- *発行を容易にするためコンピュータ通信とかデータベースなど利用してはどうか。大学間は整備されてきた。

3. 研究集会について

- *テーマを設けて集中的にやるとよい。
- *回数など無理のない程度にして続けてほしい。
- *年に1回でよい。
- *講演内容のオリジナリティは厳密に求めなくてもよい（同意見2）
- *意見交換を目的とするならオリジナリティは必要ない。
- *アイデアのオリジナリティは尊重されるべきで、研究集会では毎回一言そのことを言うておく必要があるかも知れない。それ以上は各人の良心に任せるしかない。
- *オリジナリティについては難しい問題だが、発表者がうまく使い分けをすればよいと思う。
- *カタイことをいわず、気楽な会であることのよさを充分生かしたい。
- *しばらくは現状の自由な発表の場であってほしい。
- *会場が東京や大阪近郊に偏らないように。
- *地方でも実施してほしい。
- *会員所属の他学会の講演会に近い場所で開催するなどして、参加しやすくなるよう配慮してほしい。
- *要旨集も見開き2ページで図と本文の構成にすべきだ。
- *研究集会の際に測定法や理論の講座を開いてはどうか。
- *第1回の研究集会に参加したが、成功していると思う。
- *これまでの形式の研究集会は年1回（できれば冬）として、その他に不定期にテーマを決めたシンポジウムや気楽な勉強会（スキーかテニスか温泉つき）を行ってはどうか。

4. その他の活動について

本の出版

- *海外の研究状況も含めて、総説をだしてはどうか（パンフレットでもよい）。
- *海外の代表的な新刊の翻訳、論文集などの出版物を期待する。
- *随時研究交流を深めるような企画を試行してみたらよいのでは。
- *「根研究者のためのマッキントッシュ（パソコン）」といった本の出版。
- *学会員による根の本などを出版するのはよいアイデアだ（同意見2名）。
- *よい教科書を出版してほしい。
- *各自が個人的に考えればよいことだと思う。
- *日本語での根に関する本が少ないので、ぜひ「総説」や「研究」を中心にまとめて出版してほしい。
- *日本の充実した根の研究を世界にアピールするために英語での本も期待する。

その他の活動

- *文部省科学研究費の「重点領域」を目指してほしい。
- *本の出版や科学研究費の応募は賛成だ。
- *NiftyServe（大手パソコン通信）に根研究の会議室など作ってみてはどうか
- *作物学会では根コロキウムを開いているが、他の学会でも同様な会合を開いてほしい。
- *学際的な多様なメンバーで調査プロジェクトなど企画してはどうか？カンボジアヘイネ遺伝資源の調査に入ってきたが、ヨーロッパからは国連（UNTAC）のメンバーとして経済学者や農学者が調査にきていた。日本も自衛隊ばかりでなくこうしたことも必要かなと思う。

5. その他意見など

- *植物の生産という観点からすると、例えば葉面積や葉の構造といった形態的側面のみならず、光合成機能やシंकのこともあつかわなければ意味を持たない。同様に、植物の根という形態的な分け方をせず総合的な視点にたった研究会になってほしい。
- *「葉研究会」「子実研究会」などはないようだが、なぜ「根研究会」はあるのか？「植物の一器官」としてだけではとらえられない、その機能（土壌、微生物など）が、その必要性を内包しているということだろうか？
- *研究を始めようとする学生さんや研究を始めたばかりの人にとって有効な情報源となるよう「根の研究」を編集し、「研究集会」を組織してほしい。
- *会の名称は「根系研究会」のほうが語呂がよいという意見もあるが、「根研究会」の方が親しい感じがあって、このままでよい。
- *自分は根に関する情報源として活用させてもらっている。

現在の『根の研究』の内容について（〇×で継続すべきか否かを回答）

どの項目も多数の支持がありました。特に好評だったのは「総説」・「研究」です。意見が分かれたのは「シンポジウムなどの報告」「学会発表の紹介」「カレンダー」で、それぞれ不要という

回答が複数ありましたが、反面「役に立つ」とコメントされた方々もいました。会員名簿も「1～2年に一度でよい」という指摘が5人の方からある一方で「毎掲載してほしい」という声もありました。

事務局や編集委員の労力を懸念するコメントも多

数頂きました。ありがとうございます。

アンケートに限らず、今後も随時ご意見・提言をお寄せ下さい。 (資料終り)

会告

<編集委員会より>

会誌「根の研究」への投稿を募集しております。根に関連する研究紹介、総説、問題提起などをお寄せ下さい。図表も含めて2～3頁を目安とし、A4の紙に印字し図表を貼りあわせたものか、もしくは、フロッピーと完成図表をお送り下さい(事情によっては手書き原稿も受け付けます)。書式などの詳細は前号(第2巻第1号)の最終頁に掲載の「原稿作成要領」をご覧ください。

また、学会や勉強会、出版物、人材募集などの情報もお知らせ頂けると助かります。こうした情報は手書きのメモやFAXでも結構です。

投稿・情報とも、下に掲載の事務局と同じ住所で編集幹事(阿部淳)宛にお送り下さい。誌上ではペンネーム・匿名も可能ですが、編集幹事には連絡先が分かるよう送り状や封筒などに氏名・連絡先住所を明記して下さい。

<事務局から>

住所などの変更について：異動などで所属や研究内容などの変った方は、会員名簿を修正しますので早めに事務局までご連絡下さい。

会費：1993年度会費は2,000円です。未納の方は郵便振替にて「東京0-655313 根研究会」までお送り下さい。1992年分1,000円も未納の方は併せてお支払願います。ご自分の納入状況をお知りになりたい方はハガキかFAXにて事務局までお問い合わせ下さい。なお、重複して会費を振り込まれた方については、来年度以降の会費に振り替えさせて頂きその旨ご連絡しております。

バックナンバー：1992年に発行の第1巻(全4号)は在庫がなくなりましたので、当面の間頒布を停止します。ご了承下さい。

団体会員について：団体会員は年会費7,000円にて会誌を毎号1部ずつお送りします。

入会希望の方は：これから入会を希望される方は、とりあえず「入会希望」の旨を明記して、お名前と連絡先をハガキかFAXで事務局までお知らせ下さい。1993年の既刊の号と併せて入会手続きに必要な書類一式をお送りいたします(事務局の都合により2～3週間ほどかかる場合がありますがご容赦下さい)。

その他：各号掲載の名簿や会費の請求などで誤りや疑問の点などがありましたら事務局までご連絡下さい。

事務局住所

〒113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部栽培研究室内 「根研究会」事務局
TEL 03-3812-2111 内線5045 FAX 03-3815-5851(「栽培研 根研究会」と明記願います)